



E さんの場合

E さんは中高 6 年間テニス部の生徒でした。小柄で一見非力に見える彼女が、テニスの試合では拾いまくるラリーを数時間続けるタフなプレーで連勝し、チームを関東大会に導くポイントゲッターでした。

彼女は経済学と環境問題に関心があり、高校 1 年末のテーマ設定の際に選んだテーマは「環境問題を解決すると経済は停滞するのではないか」という素朴なものでした。彼女にとって幸運なことは研究中のこの年、あの世界環境会議 COP 3 が京都で開かれ、連日のように会議の様子が報道されたことでした。彼女は情報収集 Skill を発揮して調査しているうち、これも幸運なことに茗溪学園の近所の国立環境研究所環境経済研究室にこの COP 3 に注目する研究者がいることを発見しました。彼女は部活動の合間に自転車で研究所に訪問して研究室の川島先生からアドバイスをもらい、COP 3 終了後締結された京都議定書の写しを入手、いわゆる“3つのシナリオ”を詳細に理解して今後の世界動向を把握、論文はすべて自分の言葉に直して記述しました。

彼女は慶応大学経済学部に進学、卒業後は東京大学大学院経済学研究科に進学しています。

茗溪学園中学校高等学校
〒305-8502 茨城県つくば市稻荷前 1-1
TEL. 029(851)6611 (代) FAX. 029(851)5455
www.meikei.ac.jp

F さんの場合

もう一例、私の担当した事例ではありませんが芸術系の話をひとつ。

絵が好きな F さんは小学生のころ、茗溪学園の説明会に訪れたとき校内のいたる所に飾ってある油彩画に興味を持ち、特に模写画に強く惹かれて自分も入学したらいつかこういう模写をしたいと決意していました。入学後は勿論美術部に入部（本校は実は全日本学生美術展で最高団体賞にあたる美術会賞を 18 年連続受賞している、“知られていない美術に優れた学校”でもあります）しました。

個人課題研究も、もちろん、模写画。過去の卒業生たちがまだ手をつけていない画題から探してレオナルド・ダ・ヴィンチ作「岩窟の聖母」に取り掛かりました。しかし難問が生じます。原画は保存上暗めの照明で展示されているため、画集の写真も暗く、細かい色彩がどうしてもわからない。夏休みに色彩調整にかかっても納得がいかず、ついに夏休みにパリのルーブル美術館まで色彩を確認に行き、肉眼で確認する意味を体験しました。しかしさらに難問。この「岩窟の聖母」はもうひとつ存在しどちらが真贋かわからないという。どうしても両方を確認したかった彼女はイギリス研修の際にロンドンのナショナルギャラリーでもうひとつの「岩窟の聖母」と対面。ふたつを見比べて色彩の最終調整をして完成させました。

彼女は筑波大学芸術学類に進学、その「岩窟の聖母」は今、茗溪学園のメイン展示スペースに飾られています。

編集長から一言

茗溪学園のユニークな「個人課題研究」の事例報告の続きです。今回は理系以外の分野の研究の紹介をしていただきました。

「個人課題研究」を指導する先生方も大変です。校長や体育の先生も含めた教員全員が指導に当たっていると聞いています。先生一人ひとりが数人の生徒を担当されるのでしょうか。大変なのは数だけではありません。理系の田代先生が心理学・経済学・環境問題の研究の指導？ご苦労様です。

ただ、指導しようとしているのは、研究の「スキル」です。調査の企画から論文の書上げまでの研究のステップは、分野が異なっても共通する部分が多くあります。そのスキルを指導し、大学や社会での学業や仕事に生かしてもらうことがねらいの「個人課題研究」です。

実は、このねらいがはっきりしているから、専門知識が充分でない先生でも指導できるのです。しかし、自分自身が研究のステップを体験した先生でないと、このような指導は不可能です。茗溪学園の先生方の大半が大学院での研究を経験されているとのこと。その先生方がおられてこそ、このコラムで紹介されている指導が可能なのです。

大学へ入学するためだけの勉強ではなく、大学へ進学後の学問や研究の不可欠なアカデミック・スキルをトレーニングしているから、茗溪学園の「スタディ・スキル」の指導はユニークで貴重なのです。